

## 第27回日教組人権教育実践交流集会

11月18・19日、さいたま市で日教組人権教育実践交流集会が開催され、高教組から2人が参加しました。

### 人権教育実践集会に参加して

全体会では狭山事件で冤罪被害者として今も再審無罪を訴えている石川一雄さんの貴重な講演を聞くことができました。無罪であることを証明するためには自分で冤罪を証明する申請書を書かなければならない。しかし字を書くことも読むこともできない自分は訴える術がなかった。そんな時、無実を信じてくれた刑務官が文字を教えてくれたことで無実を訴えることができ、自分は命を救われたというお話がありました。その内容から、学問は生き方や命さえ左右し、教育とは教える人の思いがいかに大切であるかということが伝わりました。石川さんの現在の趣味は俳句だそうです。自分の生き方とは教育から何を得たかで変わるのだと感じました。

分科会では「両性の自立と平等をめざす教育」に参加し、LGBTについて学びました。まだ日本では理解されにくい現状や、教職員の知識や配慮が欠けているが故に悩んでいる子どもたちがいるということがわかりました。「自分らしく生きる」ということは、お互いの違いを認め合うということ。身体の変化や性の違いにも多様性があることを知ることが大切だと思いました。

最後に世界で一番人権教育が進んでいると言われるアイルランドにおいて、どんな教職員がリスペクトされるのかを教えてもらいました。日本は完成された人をリスペクトする傾向にありますが、アイルランドでは「オープンで正直であること」つまり、自分の劣っている部分を正直に言うことができ、それを克服するために努力している姿を見せられる人がリスペクトされるそうです。教育的立場から私たちは子どもたちに模範的な姿を装いますが、私はまだまだ未熟な存在です。常日頃、子どもたちの一番身近にいる大人として手本のような姿を見せられたらとは思いますが、大人だって、先生たちだって悩んだり、努力していることがある。一生勉強なんだという姿を見せるのもありなんだと、力不足の自分を肯定的に捉え、これからも学ぶ姿勢を大切にしていきたいと思える学習会でした。